

令和7年2月28日
諫早市立真津山小学校
校長 田中 美和子

令和6年度学校評価結果について

学校評価アンケートをお願いしたところ、多くの保護者の方からご回答をいただきました。ありがとうございました。

22項目の質問について、全項目の平均は「3.1」（「わからない」評価を除く）でした。3が「おおむねできている」ですので、学校の教育活動に対して肯定的に評価していただいていると考えます。それぞれの項目について評価内容を精査し、教職員一丸となってよりよい学校づくりに励んでいく所存です。

さて、そのアンケート項目の個別の結果や今後の取組についてお知らせします。

- 1 保護者評価の評価項目で「3」を下回ったのは「家庭学習において、実態に応じた学習習慣が身に付くように工夫している」「授業・家庭学習に主体的に取り組む自ら学び表現する子に育ってきている」の項目でした。学力の定着に向けた学習への取り組み方（特に家庭学習）に課題を感じておられるようです。

真津山小学校では、「学習目標の決定」「学習道具の準備」「スキルタイムの活用」「学びの習慣化メソッド」を柱に学習の仕方の定着を図っています。このことは、先日の授業参観後の懇談会で各担任からお伝えしている通りです。

今後も学習の仕方の定着に向け、取組を継続していくとともに、時代の流れに即しつつ、しっかりと学力を付けていけるような授業改善に取り組んでいきます。ご家庭でも「学習道具の準備」（特に筆箱の中身）や「学びの習慣化メソッド」（4月に各家庭に配布しています）の確認と実践をお願いします。

家庭学習については、子供たちの実態に合わせながら、各学年で取り組んでいるところです。これからの社会の流れを見据え、デジタル化した課題も多くなっています。もちろん従来の紙のプリントでの課題にも良さがありますので、それぞれの特徴を生かしながら、学力の定着に向けて家庭学習に取り組むよう工夫をしていきます。

- 2 家庭学習について、先日の懇談会でご家庭に3つのお願いをしています。

- 机に向かって集中する時間の確保
- 「進んでやる」家庭学習の工夫
- 時々チェックして褒める



「実態に応じた学習習慣が身に付くように工夫する」ためには、ご家庭の協力が不可欠です。ご家庭と学校が協力しながら子供の学習環境を整えていくことが大事です。

学校では、

- 子供の実態に応じた課題の精選
- 家庭学習に対する意欲づけの工夫
- 個別の相談への対応や配慮
- これからの社会に必要なスキルを身に付けるための課題の出し方の工夫

等に取り組んでいきます。



3 保護者、児童、教職員、学校関係者の評価や児童の生活の様子を受けて、先生方と各学年で重点的に取り組むことを考えました。その内容を受けて、学校として全校で重点的に取り組んでいくことを「1点突破プロジェクト」として打ち出しています。3学期から1年間のスパンで取組を進めていきますので、ご家庭でも声掛けや励ましの言葉をお願いします。

- 進んであいさつをしたり、あいさつを返したりする態度を身に付けさせる。
 - ・まずは教師（大人）から、どんどんあいさつをしましょう。（笑顔で）
 - ・あいさつができた子供を大いに褒めましょう。
 - ・委員会を中心に、全校で挨拶運動を継続して行いましょう。
 - ・登下校の見守りをしてくださる地域の方にも進んであいさつをしましょう。
 - ・家庭でできるあいさつ（いってきます、ただいま、おはよう、いただきます、ごちそうさま等）についても、継続的に働き掛けていきましょう。
- 校舎内の整理整頓を徹底する。（気持ちよく過ごせる環境づくり）
 - ・教室や廊下に物が落ちている状態をなくしましょう。
（物を大切にできる子は、人も大切にできる）
 - ・廊下に不必要なものを置かないようにしましょう。（右側通行ができる環境づくり）
 - ・雑巾が全員分きちんと掛けられている状態をつくりましょう。



※学校評価についてはホームページでも公表します。

		令和6年度学校評価（保護者）	平均
人を思いやる優しい子	1	学校は、あいさつ・言葉遣い、規範意識（ルール）の定着に向けて継続的な指導を行っている。	3.1
	2	学校は、いじめや差別、不登校を生まない学校づくりに取り組んでいる。	3
	3	学校は、思いやりと感謝の心を育み、人権意識を育てるための取り組みを進めている。	3.1
心も体も元気な子	1	学校は、望ましい生活習慣（早寝早起き・メディアコントロール等）の継続的な指導を行っている。	3.1
	2	学校は、健康増進の習慣づくり（運動・歯磨き・手洗い・うがい等）のために継続的な指導を行っている。	3.2
	3	学校は、望ましい食習慣づくりのために、給食指導を中心とした食育に取り組んでいる。	3.2
自ら学び表現する子	1	学校は、自分の頭で考える教育活動を推進し、探究的な活動や交流活動など、子どもを主体者とした授業づくりを工夫している。	3.1
	2	学校は、学習準備、授業態度などの学習規律の定着について継続的な指導を行っている。	3.1
	3	学校は、家庭学習において、実態に応じた学習習慣が身に付くように工夫している。	2.9
	4	学校は、特別支援教育に力を入れ、支援を要する子どもへのサポートに取り組んでいる。	3.3
家庭との連携	1	学校は、懇談会や面談を定期的に行うとともに、連絡帳、電話連絡、家庭訪問などで、家庭との連携に努めている。	3.1
	2	学校は、学年・学級だより、メールなどで、情報発信に努めている。	3.2
教育環境	1	学校は、教室や廊下、掲示板の掲示物の工夫など、学びやすい環境づくりに努力している。	3.2
	2	学校は、清掃・整理整頓・安全点検がなされ、学びやすい環境を保つことに努力している。	3.1
	3	学校は、地域と連携しながら、登下校の安全指導や地域学習の推進に進んで取り組んでいる。	3.3
子どもと家庭の姿	1	子どもたちは、あいさつや思いやりの言動ができる「人を思いやる優しい子」に育ってきている。	3
	2	子どもたちは、運動・食事・衛生などのよい習慣づくりに努める「心も体も元気な子」に育ってきている。	3.1
	3	子どもたちは、授業・家庭学習に主体的に取り組む「自ら学び表現する子」に育ってきている。	2.8
	4	子どもたちは、毎日楽しそうに学校へ通っている。	3.2
	5	家庭は、日々の出来事を子どもと話したり、励ましの声掛けを行ったりして、進んでコミュニケーションを取っている。	3.2
	6	家庭は、子どもに様々な体験をさせ、多くの経験を積ませることで、主体性を養い、よりよい成長につなげようとしている。	3
	7	家庭は、毎日連絡帳や家庭学習の内容を確認し、学校と連携しながら子どもの教育活動に取り組むことを心がけている。	3